

PENTAX®

ESPIO120

QUARTZ DATE

使用説明書



カメラの正しい操作のため、ご使用前に必ずこの使用説明書をご覧ください。

このたびは、ペンタックス ESPIO120（エスピオ 120）デートをお買い上げいただきまして、誠にありがとうございます。「エスピオ 120」は 38 ミリ広角から 120 ミリ望遠までのズームを備え、フィルム途中でのパノラマ／標準撮影の切り替え、45cm の接写ができるスーパーマクロ、離れたところから撮影できるリモコンなど、いろいろな機能を搭載したコンパクトカメラです。

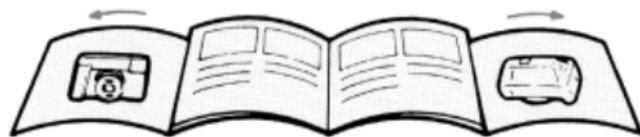
また、6 分割測光による、よりきめ細やかな露出の制御を可能にしました。

- 説明文中の ■■■ 内の注意事項には、特に気を付けてお読みください。
- 本文中の写真・イラストは、実際の製品と異なる場合があります。

※ 各部の名称は表紙と裏表紙の内側にありますので、開いて各ページを読みながらご覧いただけます。

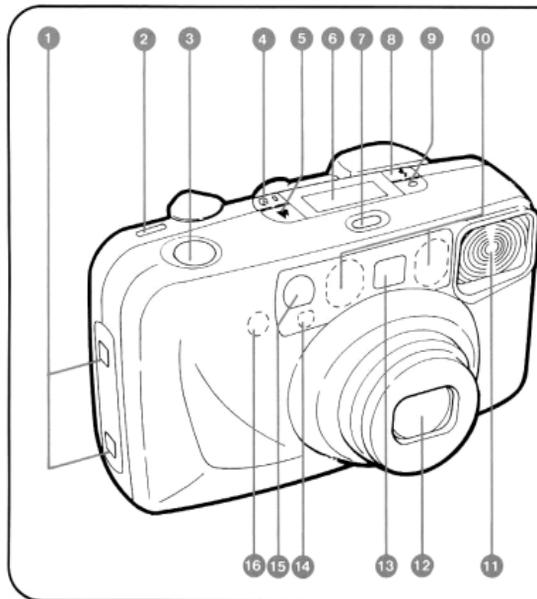
記号について

操作の方向	
自動的に動きます	
注目してください	
点灯します	
点滅します	
正しい	
間違い	



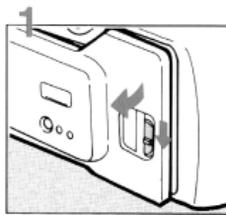
各部の名称を開いて見ながらお使いください。

各部の名称

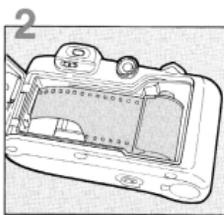


- ① ストラップ通し [6ページ]
- ② スーパーマクロボタン
[24ページ]
- ③ シャッターボタン [19ページ]
- ④ セルフ/撮影モードボタン
[27ページ]
- ⑤ 遠景ボタン [38ページ]
- ⑥ 表示パネル [50ページ]
- ⑦ 照明ボタン [17ページ]
- ⑧ ストロボ/バルブボタン
[26ページ]
- ⑨ 赤目軽減ボタン [26ページ]
- ⑩ 測距窓
- ⑪ ストロボ発光部
- ⑫ レンズ
- ⑬ ファインダー窓
- ⑭ セルフタイマーランプ
[31ページ]
- ⑮ 受光窓
- ⑯ リモコン受光窓 [34ページ]

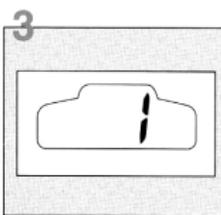
使い方は簡単です。 [通常の撮影手順]



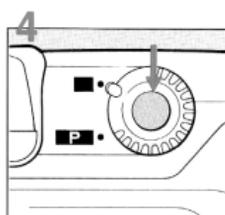
裏ぶたを開けます。
[12ページ]



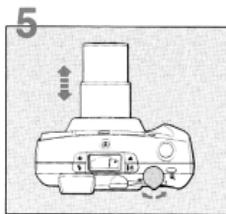
フィルムを入れ、裏ぶたを閉じます。
[13ページ]



自動的に1コマ目まで巻き上がります。
[13ページ]



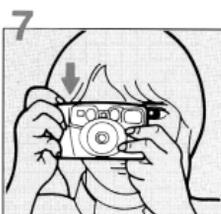
電源スイッチを押して電源をONにします。
[7ページ]



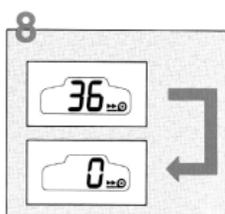
ファインダーをのぞき、ズームレバーを回して構図を決めます。
[10ページ]



写したいものにオートフォーカスフレームを合わせます。 [18ページ]



シャッターボタンを押して撮影です。暗い所では自動的にストロボが光ります。 [19ページ]



フィルムが終わると自動的に巻き戻します。
[22ページ]

この製品の安全性については十分注意を払っておりますが、46 ページにある下記マークの内容については特に注意をしてお使いください。

 警告

このマークの内容を守らなかった場合、使用者が重大な傷害を受ける可能性があることを示すマークです。

 注意

このマークの内容を守らなかった場合、使用者が軽傷または中程度の傷害を受けたり、物的損害の可能性のあることを示すマークです。

 は、禁止事項を表わすマークです。

 は、注意を促すためのマークです。

こんな写真を撮るには？



ピント関係

遠くの風景を撮りたい	38
窓越しに風景を撮りたい	38



ストロボ関係

暗い所で写真を撮りたい	16
ストロボ撮影で目が赤く写らないようにしたい	26
帽子などで影になっている人物の顔を明るく写したい	28
夕景をバックに人物を写したい	29
夜景をバックに人物を写したい	30



ズーミング関係

写したい物を大きくしたり小さくしたりしたい	10
-----------------------------	----



人物撮影関係

帽子などで影になっている人物の顔を明るく写したい	28
夕景をバックに人物を写したい	29
夜景をバックに人物を写したい	30
自分自身も写真に写りたい	31



風景撮影関係

遠くの風景を撮りたい	38
窓越しに風景を撮りたい	38
夕景をバックに人物を写したい	29
夜景を撮りたい	30
夜景をバックに人物を写したい	30



その他

フィルムの同じ枚数の部分に重ねて撮影をしたい	37
カメラから離れた所からシャッターを切ったりズームをしたい	32
写真に日付を入れたい [消したい]	42

目次

カメラを安全にお使いいただくために(1).....	1	スーパーマクロ撮影	24
こんな写真を撮るには?	2	いろいろな機能の選び方/赤目軽減機能.....	26
撮影前の準備をしましょう		日中シンクロ撮影	28
1. ソフトケース	5	低速シャッター撮影	29
2. ストラップ	6	低速シンクロ撮影	29
3. 電源スイッチの確認をしましょう	7	バルブ撮影	30
4. 電池の確認をしましょう	8	バルブシンクロ撮影	30
5. カメラの構え方	9	セルフタイマー撮影	31
6. 38~120mmのズームング	10	リモコン撮影	32
フィルムを入れて撮影しましょう		連続撮影	36
1. フィルム感度について	11	多重露出撮影	37
2. フィルムを入れましょう	12	遠景撮影	38
3. ファインダー内表示	14	パノラマ撮影	39
4. ランプ表示	15	デートの使い方	42
5. 通常の撮影モード	16	電池の消耗警告	44
6. 視度調整	17	電池の交換	45
7. 表示パネルの照明	17	カメラを安全にお使いいただくために(2).....	46
8. 撮影しましょう	18	取り扱い上の注意	47
9. フォーカスロック撮影	20	こんなときは?	48
10. フィルムを取り出しましょう	22	表示パネル [グラフィックパネル]	50
いろいろな撮影をしましょう		主な仕様	52
		アフターサービスについて	55

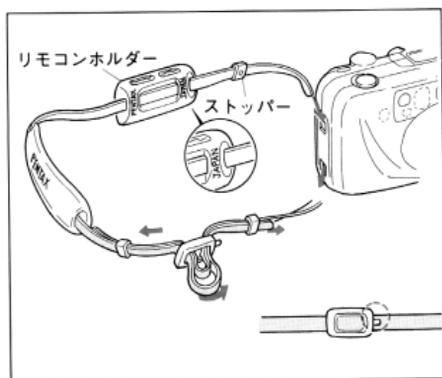
撮影前の 準備をしましょう



ケースに入れるときは、電源をOFFにしてください。[電源スイッチについては、7ページをご覧ください。]

5

2 ストラップ

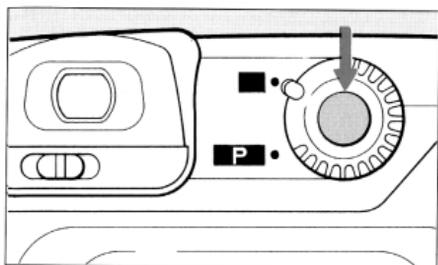


ストラップはストッパーから先端までの長さが短い方を図のようにストラップ通しの上の方から差し込んで取り付けます。[長い方から差し込みますとスーパーマクロ撮影時の撮影距離が正しく測れません。]

リモコンホルダーの取り付けは、ホルダーからリモコンを外してからストラップをホルダーの「JAPAN」の文字のある方から先に通します。ストラップ留め具の突起はクォーツデートの修正ボタンを押すときや電池ぶたを開けるときにご利用ください。

- 歩行中にカメラが揺れないように、腰より上に来る長さに調節しましょう。

3 電源スイッチの確認をしましょう



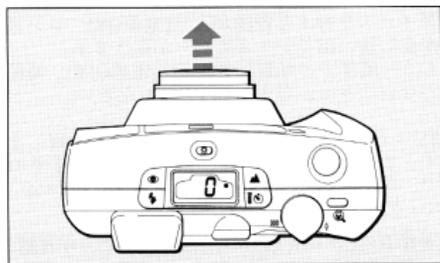
スイッチを押すと電源が入り[電源ON]、レンズが少し前に出てレンズカバーが開きます。もう一度押すと電源が切れます[電源OFF]。使用しないときは、必ずOFFにしてください。

3Vリチウム電池[CR123A相当品]1本を使用します。カメラ本体とデオート機構に共用しますので、電池消費時の交換以外は、電池を抜かないでください。

- 電源のON・OFFによってレンズカバーが自動的に開閉します。むりにカバーを開けないでください。

7

4 電池の確認をしましょう



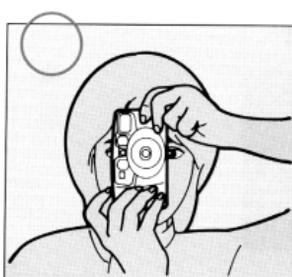
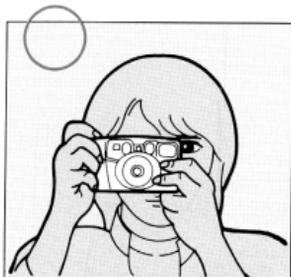
電源をONにしたとき、レンズが少し前に出れば撮影できます。

[表示パネルに  マークが出ているときは、44ページをご覧ください。]

※電源ONのまま放置した場合は、放置後約3分間たつと、自動的に電源OFFになります。

※60分以内に電源をONにすれば電源OFF直前の設定に自動復帰します。

5 カメラの構え方

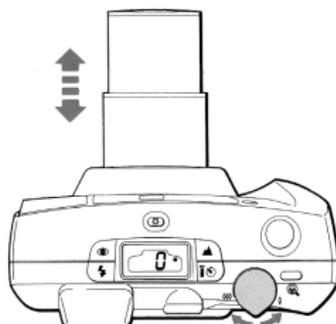


撮影するときは、カメラを両手でしっかり持ち、カメラが動かないようにして、シャッターボタンを静かに押しましょう。[強く押すとカメラが動いて、ぶれやすくなります。]
木や建物・テーブルなどを利用して、からだやカメラを安定させるのも良い方法です。
カメラを縦位置に構えてストロボ撮影するときは、ストロボが上になるようにしましょう。

- ズームレンズは、ズーミングによって前後に移動しますから持たないでください。
- カメラ前面の測距窓・レンズ・受光窓・ストロボ発光部などを、髪や手でふさぐと、ピンボケ・露出不足・露出オーバーなどの原因になります。

9

6 38~120mm のズーミング



ズームレバーを  側に回すと、遠くのを大きく写せる120mm望遠側へ、 側に回すと広い範囲を写せる38mm広角側へ動きます。ファインダーを見ながら、好みの構図になったところで止めて撮影してください。
※120mm側では、手ぶれをしやすいため、比較的手ぶれをしにくいフィルム感度 (ISO) 400 の使用をお勧めします。

- ズームレンズには、無理な力を加えないでください。また、レンズを下向きに置かないでください。レンズに無理な力が加わります。

10

1 フィルム感度について

フィルムを入れて 撮影しましょう

フィルムは一通り説明書を読んでカメラ操作に慣れてから、入れましょう。

フィルム感度自動セット

このカメラでは、フィルムを入れるだけでフィルム感度が自動的にセットされます。

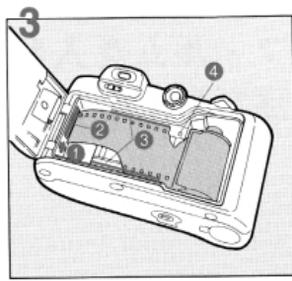
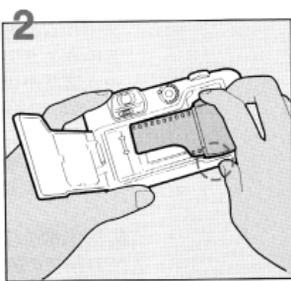
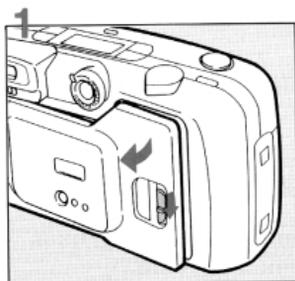
[ISO25～3200 までのフィルムが使えます。]

※フィルム感度は、手ぶれ防止やストロボ撮影に有利な ISO400 の使用をお勧めします。

- ISO1000 以上の高感度フィルムは室内や暗い所での撮影用にご利用ください。
- ほとんどのフィルムが、フィルム感度を自動的にセットできる DX フィルムですが、DX 以外のフィルムではフィルム感度が 25 にセットされてしまいますので使用できません。

11

2 フィルムを入れましょう [電源をOFFにします]



1. 裏ぶたを開ける

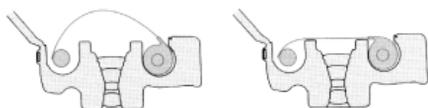
図のように、裏ぶた開放レバーを矢印方向に押し下げて、裏ぶたを開けます。

2. フィルムバトローネを入れる
バトローネ下側を先に入ると簡単に入ります。

3. フィルムの先端を合わせます
フィルムを少し引き出して①のローラーの上に乗せ、②のフィルム先端マークに合わせます。

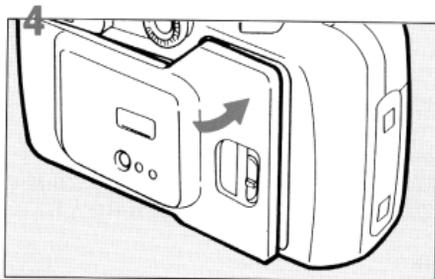
● フィルムが③のガイドレールの間に入っていることを必ず確認してください。

● フィルム検知部④にゴミなどが付着するとフィルムが正しく巻き上げられません。



×フィルムのとるみあり ○フィルムのとるみなし

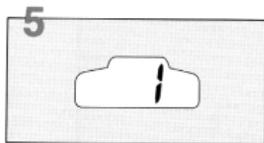
12



4. 裏ぶたを閉じる

裏ぶたを閉じると自動的にフィルムが巻き上げられ、1枚目まで進みます。

※フィルムが入っていないくても、裏ぶたを閉じるとモーターは約1~2秒間回ります。



5. フィルム巻き上げの確認

上図のように、フィルムカウンターに **1** が出て自動的に止まります。必ずフィルムカウンターが **1** になっていることを確認してください。**1** が出ないときは、フィルムが正しく巻かれていません。フィルムを入れ直してください。フィルムが正しく入っていないと、表示パネルに **E** が点滅して知らせます。

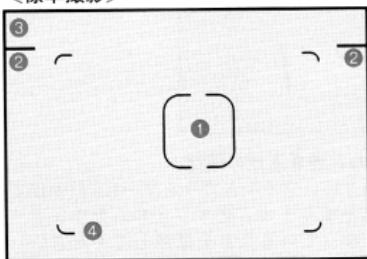
※フィルムカウンターは、電源をOFFにしても表示されます。

←左図のように、フィルムはたるみがないように入れてください。

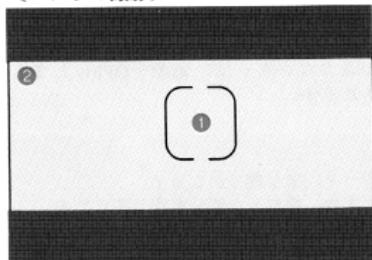
- フィルムの先端が長く出すぎているときは、フィルムをバトローネに少し押し戻します。
- フィルム先端が極端に折れ曲がっているものは、まっすぐに直すか、曲がった部分を切り取ります。

3 ファインダー内表示 [電源をONにします]

<標準撮影>



<パノラマ撮影>



ファインダー内の表示が見えにくいときは、視度調整 [17 ページ参照] を先に行なってください。ファインダー内の表示を覚えましょう。

標準撮影

① オートフォーカスフレーム

② 近距離視野補正枠

標準撮影で撮影する距離が1.2m 付近より近距離では、近距離視野補正枠内に写したいものを入れてください。

③ 視野枠

標準撮影で写る範囲です。写したいものをこの枠内に入れて撮影してください。

④ スーパーマクロ視野枠

スーパーマクロ撮影で写る範囲です。写したいものをこの枠内に入れて撮影してください。

パノラマ撮影

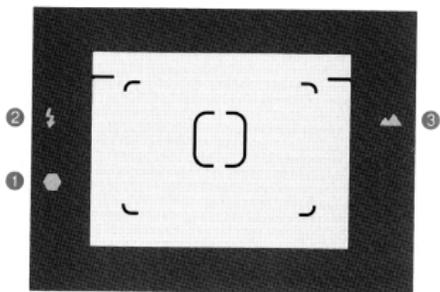
① オートフォーカスフレーム

② 視野枠

パノラマ撮影で写る範囲です。写したいものをこの枠内に入れて撮影してください。

※パノラマ近距離補正枠はありませんが、撮影距離が1.2m 付近より近距離では標準撮影と同様に写る範囲が多少下に移動しますので、ご注意ください。

4 ランプ表示



シャッターボタンを少し押しして図の①②③のランプ表示を確認して撮影しましょう。

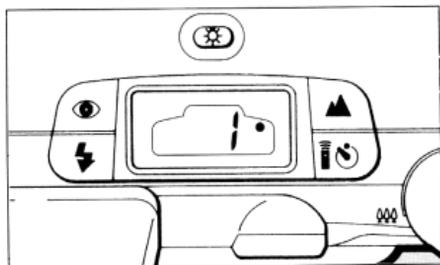
- ① 緑ランプ 点灯[撮影可能・フォーカスロック]
点滅[近距離警告]
- ② 赤ランプ 点灯[ストロボ発光]
点滅[ストロボ充電中]
- ③ 遠景ランプ 点灯[遠景撮影モード]

※緑ランプ 点滅は、撮影距離が近すぎることを知らせます。撮影するときは、必ず緑ランプ点灯を確認してください。点滅しているとシャッターは切れません。

※撮影距離が極端に近いときは、緑ランプが点灯することがあります。このとき、シャッターは切れてしまいますので、ご注意ください。

15

5 通常の撮影モード



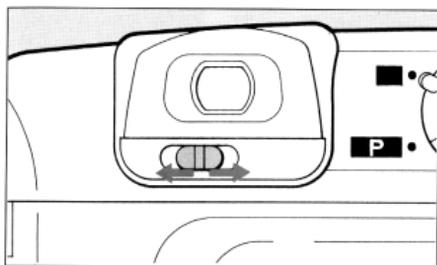
電源をONにすると、通常の撮影モードになり、上図のような表示が表れます。
この撮影モードは被写体が暗いときや逆光のときには、自動的にストロボが発光します。

- 他の表示のときは、電源をOFFにしてからONにすると通常の撮影モードに戻ります。



※暗い所でのストロボ自動発光時のシャッタースピードは約 1/40 [広角] ～約 1/60 秒 [望遠] です。[ISO100 フィルム使用時]

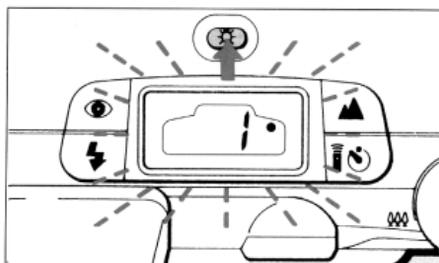
6 視度調整



カメラを明るい方へ向けて、図のように視度調整レバーを左右に動かし、ファインダー内中央のオートフォーカスフレームの線が最もはっきり見える位置に調節します。

- 視度調整は、ご使用前に必ず行なってください。

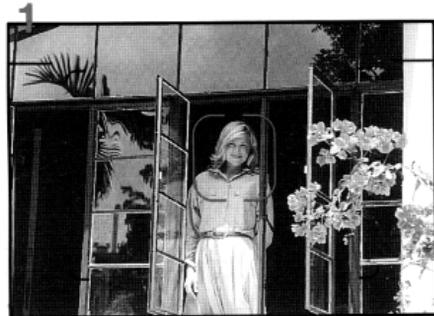
7 表示パネルの照明



照明ボタンを押すと、表示パネルが照明されますので、暗い所での操作にご利用ください。ボタンから指を離すと、約8秒後に照明は消えますが、ズームレバーやシャッターボタンなどを操作中はその後も点灯を続けます。

17

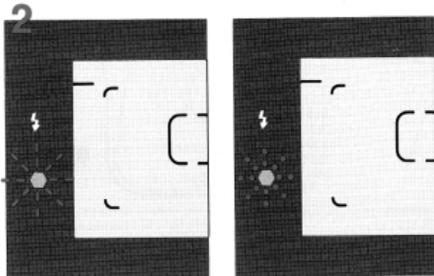
撮影しましょう



1. 構図を決める

ズームレバーを使って構図を決め、画面中央の [C] オートフォーカスフレームを写したいものに合わせます。

※サービスサイズのカラープリント[パノラマプリントを含む]では、画面周辺の物がプリントされないことがあります。構図に少し余裕を持たせてください。



2. ランプ表示の確認

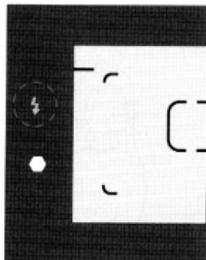
シャッターボタンを少し押し、ピントが合うとファインダー内左側の緑ランプ [C] が点灯します。

0.85m [焦点距離 38mm 側では 0.65m] より近い距離では緑ランプが点滅して警告します。シャッターボタンを押し直してランプが点灯する位置まで離れてください。ランプが点滅しているとシャッターは切れません。

- 赤ランプ [C] が点灯した場合は、ストロボ撮影になります。「ストロボ撮影できる距離範囲」を確認してから撮影してください。[19ページ参照]

18

3



3. 撮影

さらにシャッターボタンを押すと撮影できます。[撮影後フィルムは1枚巻かれます。]

※シャッターを切ると同時にセルフタイマーランプが一瞬点灯して撮影を知らせます。

※一度ピントを合わせてから、別のものにピントを合わせ直すときは、シャッターボタンを押し直してください。

※ズーム中は、シャッターが切れません。

ストロボ自動発光

被写体が暗いときや逆光のときには、ストロボが自動発光します。赤ランプの点灯は、ストロボが発光することを知らせます。赤ランプの点滅は、ストロボの充電中でシャッターが切れませんので、赤ランプの点灯を確認してから撮影してください。また、ストロボを発光させるほどでない逆光では、自動的に露出を補正しますので、写真が暗くならないのを防ぐことができます。

「エスビオ120」には、ストロボ2度発光による赤目軽減機能が付いています。詳しくは26ページおよび51ページをご覧ください。

※ストロボを連続して使うと、電池が多少温かくなる場合がありますが、異常ではありません。

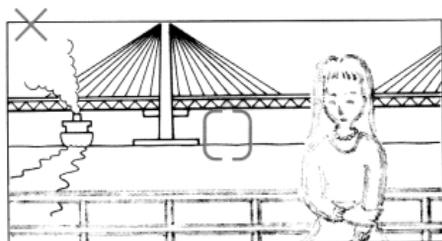
ストロボ撮影できる距離 [ネガカラーフィルム使用時]

レンズ \ ISO	100	200	400
38mm (●●●)	0.65~5.1m	0.65~7.3m	0.65~10.3m
120mm (●)	0.85~2.6m	0.85~3.7m	0.85~5.3m
スーパーマクロ (⊙)	0.45m	0.45m	0.45m

19



フォーカスロック撮影

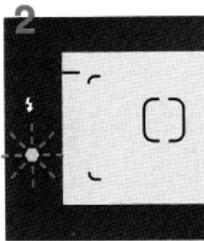


こんなときは注意しましょう!

このまま撮影すると、図のように人物にはピントが合わず、後ろに合ってしまいます。

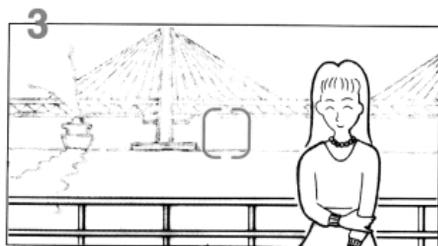
ピントを合わせたいものがファインダー中央の [] から外れているときは、右の操作説明に従ってフォーカスロック撮影をしましょう。

[フォーカスロックとは、撮影前にピントを合わせて、それを一時的に固定することです。]



1. [] オートフォーカスフレームを合わせるピントを合わせたいものに [] を合わせます。人物の顔などピントを合わせたいものが小さく見えるときは、胸などに合わせてください。

2. フォーカスロック [緑ランプ点灯]
シャッターボタンを少し押しとファインダー内左側の緑ランプ [] が点灯して、ピントと露出が固定されます。



3. 構図に合わせて撮影します
シャッターボタンを少し押したまま写したい構図にして、シャッターを切ります。

※フォーカスロックは、シャッターボタンから指を離すと解除されます。

※ 連続撮影のときは、フォーカスロックはできません。

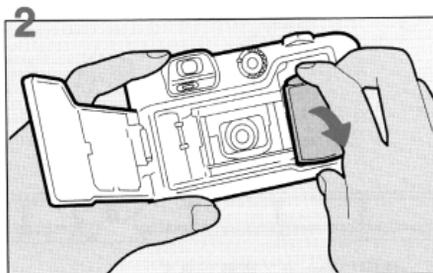
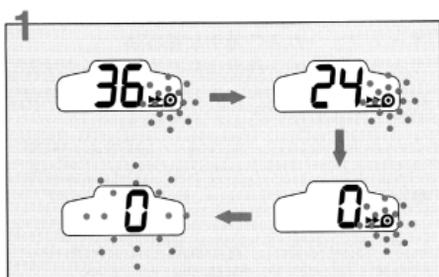
オートフォーカスの苦手な被写体

オートフォーカス機構は高精度のものですが万能ではありません。次のような被写体ではピントが合わないことがあります。このような場合は、被写体とほぼ等しい距離にあるものに「フォーカスロック」してから撮影してください。

1. 黒い髪の毛など、光を反射しにくいもの。
2. 金網・格子など、面積が小さいもの。
3. ネオンや蛍光灯・木もれ日などの点滅光源や、それによって強く照明されているもの。
4. ガラスや鏡、車のボディーなど、光沢があって反射するもの。
5. 速いスピードで動いているもの。
6. 噴水・水面・炎・花火など、形のはっきりしないものや霧の中の被写体。

21

10 フィルムを取り出しましょう[フィルムは直射日光が当たらない所で取り出しましょう]



1. フィルムの巻き戻し

フィルムの最後まで撮り終わると、レンズが自動的に収納され、巻き戻しが始まります。巻き戻しが終わるとモーターは止まり、図のように0が点滅して知らせます。

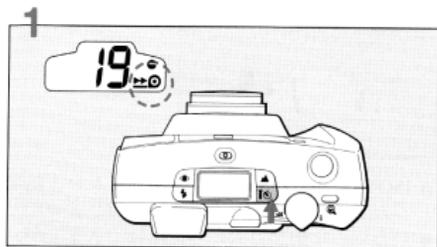
- ※巻き戻し時間は24枚撮りで約20秒です。
- ※巻き戻し中は、撮影枚数が逆算表示されます。
- ※巻き戻し完了時、光もれを防ぐためフィルムは、パトローネに巻き込まれます。

2. フィルムの取り出し

裏ぶたを開けて、図のようにフィルムを取り出します。

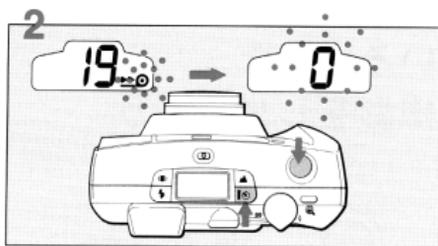
※規定枚数になっても、まだ撮影が続けられるときは、フィルムが最後まで進んでから巻き戻しが行われます。

- フィルムの規定枚数を超えた最後のコマは、現像処理でカットされることがあります。
- 巻き戻し中は裏ぶたを開けないでください。



フィルムの途中巻き戻し
フィルムを途中で取り出したいときは、次の操作をしてください。

1. 電源をONにして、セルフ/撮影モードボタンを3秒以上押し続けると、表示パネルに  マークが現れて、途中巻き戻しモードになります。このときに、 表示が点滅します。

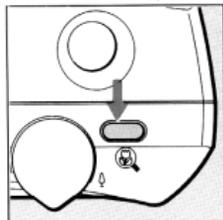


2. セルフ/撮影モードボタンを押したまま、シャッターボタンを押すと、巻き戻しが始まります。巻き戻しが終わるとモーターは止まり  が点滅して知らせます。

23

スーパーマクロ撮影

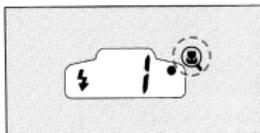
いろいろな撮影をしましょう



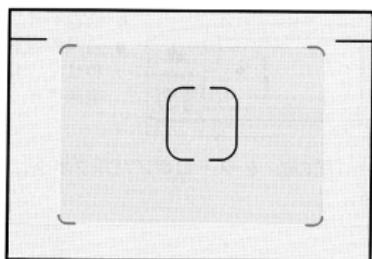
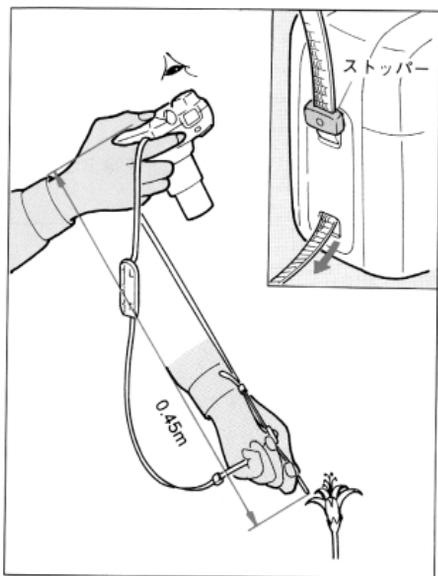
スーパーマクロボタンを押し、表示パネルに  表示を出して撮影します。スーパーマクロは0.45m [固定] の接写ができ、サービスサイズにプリントしたとき、ほぼ実物大になる大きさに写ります。

オートフォーカスは働きません。ストロボは常に発光します。

1コマ撮影後は、自動的に一般撮影に戻ります。撮影前に一般撮影に戻すときは、ズームレバーを動かします。



- ISO100~400のネガカラーフィルムをご使用ください。その他のフィルムは適しません。
- いろいろな撮影方式との併用はできませんが、露出方式の変更はできません。
- スーパーマクロ撮影時は、緑ランプ  は点灯しません。
- ファインダー下側にレンズ枠が見えますがフィルムには写りません。

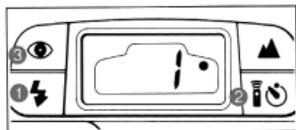


撮影距離は付属のストラップで0.45mの距離が測れます。

ストラップに付いているストッパーがカメラの上側ストラップ通し穴に当てつくまで、ストラップを引っ張ります。ファインダーを見ながらストラップの先端部を写したいものに合わせ、撮影距離を0.45mにします。

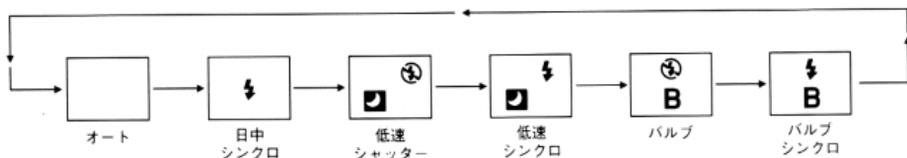
写したいものをスーパーマクロ視野枠内に納めて撮影してください。

いろいろな機能の選び方／赤目軽減機能



- ①②のボタンは、1回ずつ押して合わせます。
- 通常の撮影では、左図のように「オート撮影」で1コマ撮影に合わせてご使用ください。
電源スイッチをOFFからONにするとこのモードになります。

露出方式 [図の①] [] ストロボ／バルブボタンを押すと、いろいろな「露出の方式」を選ぶことができます。]

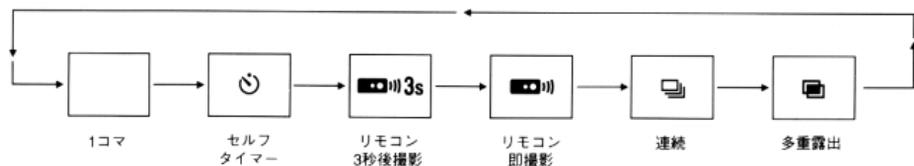


- 露出方式がどのモードでもシャッターを一度切った後に①のボタンを押すと「オート撮影」に戻ります。

赤目軽減機能

③の赤目軽減ボタン [] を押して表示パネルに [] を表示させておくと、ストロボが2度発光します。シャッターが切れる直前に最初のストロボ発光 [小光量] が行なわれ、瞳径を小さくしてからストロボ撮影をするので、目が赤く写るのを目立たなくすることができます。もう一度押すと解除されます。

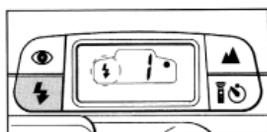
撮影方式 [図の②] セルフ/撮影モードボタンを押すと、いろいろな「撮影の方式」を選ぶことができます。]



● 撮影方式がどのモードでもシャッターを一度切った後に②のボタンを押すと「1コマ撮影」に戻ります。

※② セルフ/撮影モードボタンを3秒以上押し続けると、途中巻き戻しモードになります。 [23ページ参照]

日中シンクロ撮影



ストロボ/バルブボタンを押し、表示パネルに⚡表示を出します。明るい所でも暗い所でもストロボ撮影

になります。

逆光以外でも被写体の顔が陰になってしまうような場合に、ストロボを利用すると、陰の取れたきれいな写真が撮れます。また、常時ストロボ撮影を行ないたいときにもご使用ください。



ストロボなし

- シャッターボタンを少し押し、ファインダー内左側の赤ランプに点灯を確認してから撮影してください。赤ランプの点滅は、ストロボの充電中です。
- 日中、ストロボを補助光として使用する場合にも、「ストロボ撮影できる距離の範囲内」で撮影してください。 [19ページ参照]



ストロボ使用 日中シンクロ

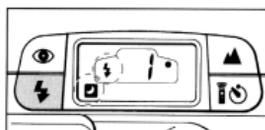


ストロボOFF
[発光停止]
ストロボ/バルブボタンを押
し、表示パネル
に  表示を

出して撮影します。

暗い所でもストロボを発光させないで、約1/5秒までの低速シャッターで撮影できます。ストロボが使えない場所[劇場、美術館など]での撮影にご利用ください。また、室内の照明を利用して雰囲気のあるソフトな写真も楽しめます。

- 暗い所ではシャッター速度が遅くなるので、カメラぶれを防ぐために三脚などをご使用ください。

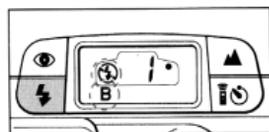


低速シンクロ撮影
[ストロボ使用]
ストロボ/バルブボタンを押
し、表示パネル
に  を表示

させると、低速シンクロ撮影になります。暗い背景で人物撮影をするとき、人物にはストロボ光があたり、背景も遅いシャッタースピードでバランス良く写せます。



バルブ撮影・バルブシンクロ撮影



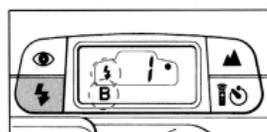
バルブ撮影
ストロボ/バルブボタンを押
し、表示パネル
に  B 表示を
出して撮影しま

す。

シャッターボタンを押している間、シャッターが開いて最長10分までの長時間露出ができます。花火や夜景の撮影にご利用いただけます。撮影時は、カメラぶれを防ぐため三脚などに固定してください。



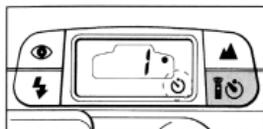
バルブ撮影
ISO100で約3秒間の撮影



バルブシンクロ
撮影
ストロボ/バルブボタンを押
し、表示パネル
に  B 表示を

出して撮影します。バルブシンクロ撮影ではストロボが使えますので、夜景などを背景にした人物撮影ができます。

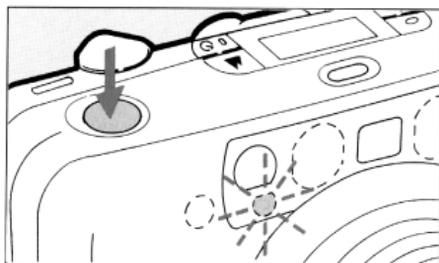
セルフタイマー撮影



撮影者も入って記念撮影をするときなどにご利用ください。撮影時は三脚などを使用してくだ

さい。

セルフ／撮影モードボタンを押して、表示パネルに表示を出して撮影します。



写したいものにピントを合わせてから、さらにシャッターボタンを押すと、約10秒後にシャッターが切れます。

セルフタイマーの作動中は、表示パネルのの点滅とセルフタイマーランプの点灯で知らせます。シャッターが切れる約3秒前から、ランプは点滅に変わります。

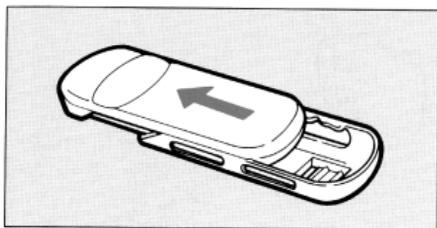
31

リモコン撮影

- カメラ前面に立ってセルフタイマーをスタートさせると、写したいものにピントが合わなくなることがありますので、ご注意ください。
- セルフタイマーをスタートさせた後に中止したいときは、電源スイッチを押してください。[この場合は電源OFFになりません。]
- ストロボ撮影のときは、ストロボの充電完了[赤ランプ点灯]を確認してから、セルフタイマーを起動させてください。
- セルフタイマーを使ってバルブ撮影をした場合、シャッター速度は約1/2秒になります。

リモコンを使うと、カメラから離れた所から好みのタイミングで撮影することができます。また、リモコンによるステップズームもできます。

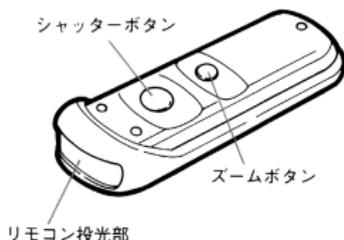
- ※リモコン撮影するときは、三脚などをご利用ください。
- ※リモコン撮影時もカメラ側の各露出モードとの組み合わせによる撮影ができます。ただし、撮影方式は、「1コマ」撮影だけとなり、「セルフタイマー撮影」・「連続撮影」・「多重露出撮影」は使用できません。
- ※バルブ撮影のときは、リモコンのシャッターボタンを押している間、シャッターが開き続けます。[最長約10分]



リモコンを外します

図のように、リモコンをリモコンホルダーより矢印方向に引き抜いてください。

リモコン各部名称



撮影タイミングの選択

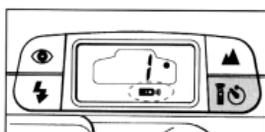
カメラのセルフ/撮影モードボタンを押して、表示パネルにリモコン3秒後撮影モード  かリモコン即撮影モード  を出し、撮影タイミングを選びます。



リモコン3秒後撮影

リモコンのシャッターボタンを押すと3秒後に撮影されます。[このとき、カメラのシャッターボタンを押すと通常の1コマ撮影になります。]

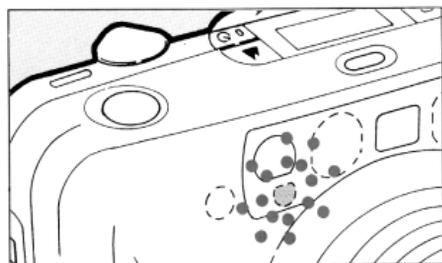
このとき、カメラのシャッターボタンを押すと通常の1コマ撮影になります。]



リモコン即撮影

リモコンのシャッターボタンを押すとすぐに撮影されます。

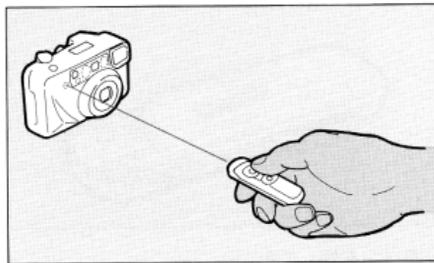
33



ランプの点滅

撮影モードをリモコン撮影モードにするとカメラ前面のセルフタイマーランプがゆっくり点滅し、リモコン撮影ができることを知らせます。

※リモコン撮影モードのまま、約10分間放置すると、自動的に電源OFFになります。再びご使用になる場合は、電源スイッチを入れ直してください。



撮影

ファインダーで構図を決め、オートフォーカスフレームを写したいものに合わせます。カメラから離れてリモコン受光窓にリモコン投光部を向け、リモコンのシャッターボタンを押すとシャッターが切れます。

※リモコン3秒後撮影にセットされている場合は、セルフタイマーランプが3秒間早い点滅をしたあとシャッターが切れます。

※リモコン撮影時のフォーカスロックはできませんので、リモコンのシャッターボタンを押したときのオートフォーカスフレームに合っているものに、ピントが合います。

※ リモコン撮影モードでは、撮影距離が85cmより近距離 [焦点距離 38mm 側では65cm] でもリモコンのシャッターボタンを押すとシャッターが切れてしまいますので、ご注意ください。

リモコン撮影のできる距離
カメラ前面受光窓の真正面から約5m以内

- 逆光時はリモコン撮影ができないことがあります。その場合は、通常のセルフタイマー撮影をご利用ください。
- ストロボ充電中はリモコン操作はできません。

リモコンによるズーミング

リモコン投光部をカメラのリモコン受光窓に向け、ズームボタンを押すたびに、レンズの焦点距離が120mm→65mm→38mm→120mmとステップズームを繰り返します。

※ リモコンによりズーミングを行なうときは、あらかじめファインダーで、120mm望遠までズーミングしたときのことも考慮して、構図を決めてください。ズームアップしたときに、被写体が画面に入らないなどの失敗を防ぐことができます。

リモコン用電池の寿命

約30,000回送信することができます。電池の交換は最寄りのペンタックスサービスセンターにご用命ください。[有料]

連続撮影



セルフ/撮影モードボタンを押して、表示パネルに  表示を出して撮影します。シャッターボタンを押し続けると約1.7秒毎に1コマの連続撮影ができます。

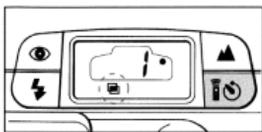
- ピント合わせは1コマ毎に行なわれますので、オートフォーカスフレームを写したいものに合わせながら撮影してください。
- ストロボ撮影のときは、ストロボ充電完了[赤ランプ点灯]後、次の撮影を行ないます。

多重露出撮影 [フィルムをプリントするとき、多重露出されていることを店頭で申し出ないとプリントされない場合があります]



同一のフィルム画面上に重ねて撮影することができます。

アイデア次第でおもしろい写真が作れます。



撮影手順

1. セルフ/撮影モードボタンを押して、表示パネルに 表示を出して撮影します。
 2. シャッターボタンを押して1回目の撮影をします。[フィルムは巻き上げられません。] 表示パネルのフィルムの枚数表示と が点滅して、多重露出撮影中であることを知らせます。
 3. 構図を決めてから、シャッターボタンを押して2回目の撮影をします。[撮影が終わるとフィルムが巻き上げられ「1コマ撮影」に戻ります。]
- ※多重露出を2回以上行なうときは、「2.」の操作の後に、セルフ/撮影モードボタンを押して表示パネルの 表示を点灯にしてから再び撮影してください。
- ※デートの表示は、最後の「3.」の操作で写し込まれます。
- ※多重露出を何回も行なうと、全体に明るい露出オーバーの写真になります。[2回目までの多重露出をお勧めします。]
- ※多重露出は、背景が黒いもの[夜景など]に人物を重ねて撮影するなどの方法があります。

37

遠景撮影



遠い風景やガラス越しの遠景などを撮影するとき、遠景撮影モードにすると、よりシャープな風景写真が撮れます。

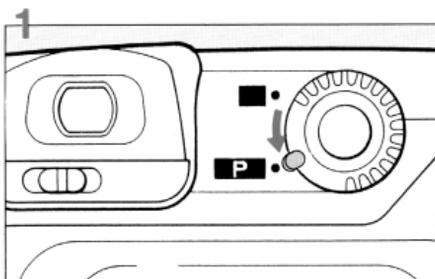
遠景ボタンを押して、表示パネルに 表示を出して撮影します。シャッターボタンを少し押すとファインダー内右側にも が点灯表示されます。

※遠景撮影モードでは、緑ランプ は点灯しません。



※一度撮影をすると遠景モードは解除されます。ただし、連続撮影モードではシャッターを押している間は解除されません。

※露出方式がオート撮影モードではストロボは発光しません。



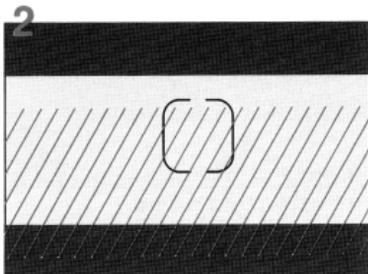
「エスピオ120」では、撮影途中でも自由にパノラマと標準撮影とを切り替えることができます。

パノラマ撮影ではフィルム上で横長に写りますので、パノラマプリントにするとダイナミックな写真が楽しめます。

1. パノラマ撮影に切り替えます

パノラマ切り替えスイッチを **P** に合わせるとパノラマ撮影モードになります。

※パノラマに切り替えると、ファインダー内がパノラマ用に横長になります。



2. 撮影します

パノラマの視野枠内に写したいものを入れて撮影してください。

- 1.2mより近距離でパノラマ撮影をするときは、標準撮影をするときと同様に、写る範囲が多少下に移動しますので、構図を決めるときに斜線の範囲に写したいものを入れてください。



赤線は日付や時刻の写し込まれる位置

パノラマデートについて

標準撮影と同様にパノラマ撮影でも画面内右下に日付や時刻を写し込むことができます。使い方は標準撮影の場合と同じですので、「デートの使い方」42ページをご覧ください。

標準デートとパノラマデートの切り替えは、パノラマ切り替えスイッチのセットにより自動的に行なわれます。

パノラマプリントについて

パノラマモードで撮影されたフィルムの現像／プリントをご依頼になるときは、必ず付属のパノラマシールをフィルム [パトローネ] に貼り、パノラマプリントをご指定ください。

- パノラマと標準撮影を途中で切り替えて撮影した場合 →



- フィルム全数をすべてパノラマで撮影した場合 →



※パノラマモードで撮影した場合、通常の同時プリントに比べ日数、料金がかかります。

詳しくは、お店でおたずねください。

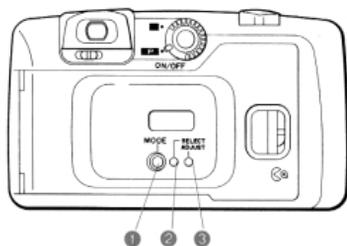
※パノラマ撮影では、図のように標準撮影のフィルム1コマ分の上下をカットするだけですから撮影枚数は、標準撮影のときと同じです。



※パノラマでは、フィルム上に約13mm×36mmの大ききで画像を写し込み、プリント段階では約12mm×35mmの範囲のプリントを行ないます。ただし、この範囲はズーム位置によって多少違います。

※パノラマプリントはおよそ89mm×254mmのサイズにプリントされます。これは標準撮影されたフィルムを六ッ切りサイズに引き伸ばしたものとほぼ同じ倍率になります。

デートの使い方



- ① **MODE** モード : 切り替えボタン
- ② **SELECT** セレクト : 選択ボタン
- ③ **ADJUST** アジャスト : 調整ボタン

「エスピオ120」クォーツデートは、2019年までのオートカレンダー機能を持っています。日付や時刻の表示は、製品出荷時にほぼ正しくセットしてあります。

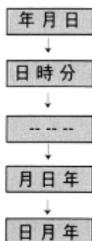
モードの切り替え

①の**MODE**ボタンを爪で押し、希望の表示を出します。

※日付や時刻の表示を写し込みたくない場合は、----に合わせます。

※デート表示窓の**M**は「月」の位置を示しています。

※**SELECT**および**ADJUST**ボタンを押すときは、ストラップ留め具のピンをご使用ください。



※この写真の数字はハメコミ合成です。

日付や時刻の修正

1. ②の[SELECT]ボタンを押して修正したい数値を点滅させます。
2. ③の[ADJUST]ボタンは、②の[SELECT]ボタンで指定した修正したい数値[点滅させた]を変更するときを押します。1回押すごとに数値が1つ進み、押し続けると約2~3秒後からは早送りされます。
3. 修正後は、②の[SELECT]ボタンを押して、[-] 押し込み可能マークを表示させます。

※修正中[点滅表示中]は、シャッターを切ってもデータは写し込まれません。

※「年月日」表示の「年」は、1994年では「94」、2001年では「01」のように下2ケタのみが表示されます。

※「日時分」表示の時に②の[SELECT]ボタンで[:]表示を点滅させ、④の[ADJUST]ボタンを時報などに合わせて押すと0秒にセットされます。

データの写し込みについて

写し込みたい日付や時刻を選んでデータ表示窓に出しておけば、シャッターを切るごとに写し込まれます。

※「年月日」と「日時分」を同時に写し込むことはできません。

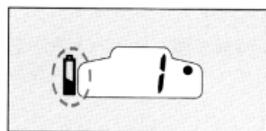
※シャッターを切るとデータ表示窓の[-] が点滅し、写し込みが行なわれたことを示します。

※標準デートとパノラマデートの切り替えは、パノラマ切り替えスイッチのセットにより自動的に行なわれます。

- 日付や時刻が写る部分に白・黄色などの明るい被写体来ると、日付や時刻が見えにくくなります。日付や時刻が写る部分には明るいものが来ないようにしましょう。

43

電池の消耗警告



電池が消耗してくると表示パネルに図の [L] マークが出て警告します。早めに新しい電池と交換してください。[L] が点滅に変わると、シャッターが切れなくなります。

撮影できるフィルム本数 [24枚撮り]
通常の撮影モードでストロボの使用率を
50%にした場合 約15本
[CR123A電池・当社試験条件による]

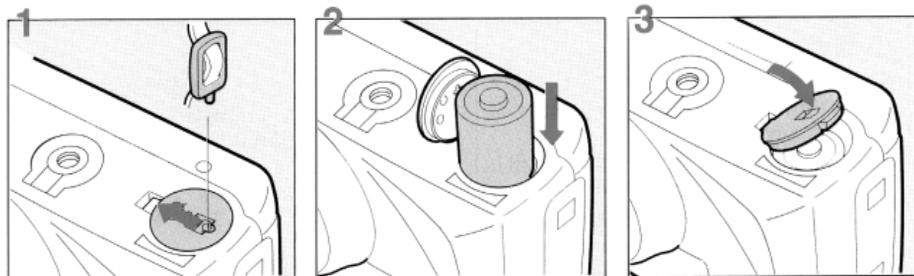
電池を交換するときの注意

1. 電池の交換は、電源をOFFにしてフィルムが入っていないときに行なってください。
2. フィルムが入っている状態で電池を交換すると、フィルムを約2コマ分空送りして撮影枚数が [1] に戻りますが、撮影は続けられます。[フィルムの終わり近くで電池を交換した場合、カメラがフィルムを検知できずに表示パネルに撮影枚数が出ず、[E] が表示されることがあります。フィルムを途中巻き戻し操作で巻き戻してから取り出してください。]
3. 電池は、デート用電源と共用です。交換後は日付および時刻の修正を行なってください。[修正は43ページをご覧ください。]

※低温では、一時的に電池の性能が低下することがありますが、常温に戻れば使用できます。

※海外旅行・寒冷地での撮影や写真をたくさん撮るときは、予備電池をご用意ください。

電池の交換 [電源をOFFにします]



1. 電池ぶたを開けます

ストラップ留め具のピンを利用して電池ぶたのロックを矢印方向に引いて電池ぶたを開けます。

2. 電池を入れます

電池ぶたの+表示に合わせて、リチウム電池を正しく入れます。

使用電池 [3Vリチウム電池1本]
CR123A相当品

3. 電池ぶたを閉めます

電池ぶたを矢印方向に押します。電池ぶたが正しくロックされると、「カチッ」と音がします。

- 電池が正しく入っている場合は、電池ぶたを取り付けたとき、ズームレンズとモーターが少し動きます。
- 電池ぶたを開けたときは、日付および時刻の修正を行なってください。
[修正は43ページをご覧ください。]

45

カメラを安全にお使いいただくために(2)

⚠ 警告

- ⊘ カメラを分解しないでください。カメラ内部には高電圧部があり、感電の危険があります。
- ⊘ 落下などにより、カメラ内部が露出したときは、絶対に露出部分に手をふれないでください。感電の危険があります。
- ⊘ ストラップが首に巻き付くと危険です。小さなお子様がストラップを首に掛けないようご注意ください。
- ⊘ 太陽を直接見ないでください。長時間見ていると目を痛めることがあります。
- ⊘ カメラを水に濡らさないでください。感電の危険があります。
- ⚠ 電池は幼児の手の届かない所に保管してください。万一電池を飲み込んだ場合は、直ちに医師にご相談ください。

⚠ 注意

- ⊘ 目の近くでストロボを発光させないでください。目を痛めることがあります。特に、乳幼児にはご注意ください。
- ⊘ 電池をショートさせたり、火の中に入れてしないでください。また、分解や充電をしないでください。破裂・発火の恐れがあります。
- ⚠ カメラ内の電池が発熱・発煙を起こしたときは、速やかに電池を取り出してください。この場合、やけどに十分ご注意ください。

- ・汚れ落としに、シンナーやアルコール・ベンジンなどの有機溶剤は使用しないでください。
- ・高温多湿の所は避けてください。特に車の中は高温になりますのでご注意ください。
- ・防虫剤や薬品を扱う所は避けてください。また、カビ防止のためケースから出して、風通しの良い所に保管してください。
- ・このカメラは防水カメラではありませんので、雨水などが直接かかる所では使用できません。
- ・強い震動・ショック・圧力などを加えないでください。オートバイ・車・船などの震動は、クッションなどを入れて保護してください。

- ・レンズ、ファインダー窓のホコリはブロワーで吹き飛ばし、きれいなレンズブラシで取り去ってください。
- ・業務用または過酷な条件での使用には、お勧めできません。
- ・高性能を保つため、1~2年毎に定期点検をしてください。長期間使用しなかったときや、大切な撮影の前には点検や試し撮りをしてください。
- ・カメラの使用温度範囲は-10°C~50°Cです。
- ・急激な温度変化を与えると、カメラの内外に水滴が生じます。カメラをバッグやビニール袋などに入れ、温度差を少なくしてから取り出してください。
- ・ゴミや泥・砂・ホコリ・水・有害ガス・塩分などがカメラの中に入らないようにご注意ください。故障の原因になります。雨や水滴などが付いたときは、良く拭いて乾かしてください。

こんなときは？[詳しくは、各ページをご覧ください]

修理を依頼される前にもう一度、次の点をお調べください。

症状	原因・対処
症状1 :シャッターが切れない。	原因・対処1 : ● 電源スイッチがOFFになっていませんか、スイッチをONにしてください。[7ページ] ● 電池が入っていますか。電池が消費していませんか。[44ページ] ● 表示窓に  が点滅している場合は、フィルムが終了しています。新しいフィルムと交換してください。[22ページ] ● 緑ランプ  が点滅していませんか。撮影距離が近すぎます。点灯するまで離れてください。[15ページ]
症状2 :写真の出来が良くない。	原因・対処2 : ● ピントを合わせたいものにAFフレームを合わせて撮影してください。[18ページ] ● 指や髪などで測距窓を覆わないようにして、シャッターボタンは静かに押してください。[9ページ]
症状3 :ズームレンズが勝手に収納された。 [電源がひとりでに切れた]	原因・対処3 : ● 電源ONのまま放置した場合は、放置後約3分間たつと、自動的にOFFになります。[8ページ] ● リモコン使用時は、放置後約10分間たつと、自動的にOFFになります。[34ページ]

症状	原因・対処
症状4: リモコンによる操作が出来ない。	原因・対処4: <ul style="list-style-type: none"> ● リモコンが作動するのは、カメラの正面で約5mです。この範囲内でリモコンを操作してください。[35ページ] ● 逆光時はリモコンが作動しないことがあります。[35ページ] ● ストロボ充電中。充電が完了するまで待ってください。[35ページ]
症状5: 暗くないのにストロボが発光する。	原因・対処5: <ul style="list-style-type: none"> ● 逆光のときにもストロボが自動発光します。[19ページ]
症状6: 表示パネルに H や U などの表示がでる。	原因・対処6: <ul style="list-style-type: none"> ● ズームレバーなどを動かしてみてください。表示が消えればそのままご使用になれますが、度々出る場合には故障の可能性があります。

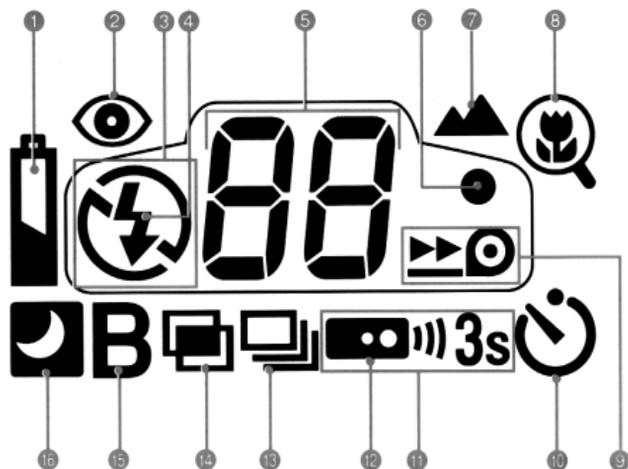
ISO100、200、400以外のフィルムを使用したときのストロボ撮影距離範囲 [ネガカラーフィルム使用時]

レンズ \ ISO	25	50	1000	1600	3200
38mm (◆◆◆)	0.65~2.6m	0.65~3.6m	0.9*~17.4m	1.1*~22.0m	1.6*~31.0m
120mm (◆)	0.85~1.3m	0.85~1.9m	0.85~8.9m	0.85~11.3m	0.85~15.9m

* 高感度のため近距離では露出オーバーになることがあります。

49

表示パネル



各部の名称

① 電池消耗警告	[44 ページ]
② 赤目軽減	[26 ページ]
③ ストロボOFF	[29 ページ]
④ ストロボON	[28 ページ]
⑤ フィルムカウンター	[13 ページ]
⑥ シャッターボタン	
⑦ 遠景	[38 ページ]
⑧ スーパーマクロ	[24 ページ]
⑨ フィルム巻き戻し	[23 ページ]
⑩ セルフタイマー	[31 ページ]
⑪ リモコン3秒後撮影	[33 ページ]
⑫ リモコン即撮影	[33 ページ]
⑬ 連続	[36 ページ]
⑭ 多重露出	[37 ページ]
⑮ パルプ	[30 ページ]
⑯ 低速シャッター	[29 ページ]

液晶表示 [LCD] について

- 約60°Cの高温では液晶表示が黒くなる場合がありますが、常温に戻れば正常になります。
- 低温下では、液晶の表示応答速度が遅くなる場合があります。これは液晶の性質によるもので故障ではありません。

ストロボ撮影の赤目現象

ストロボ撮影で人物の目が赤く写ることがあります。これは、目の網膜にストロボの光が反射して発生する現象です。人物の周りを明るくしたり、撮影距離を近くにしてレンズを広角側で撮影すると、発生しにくくなります。

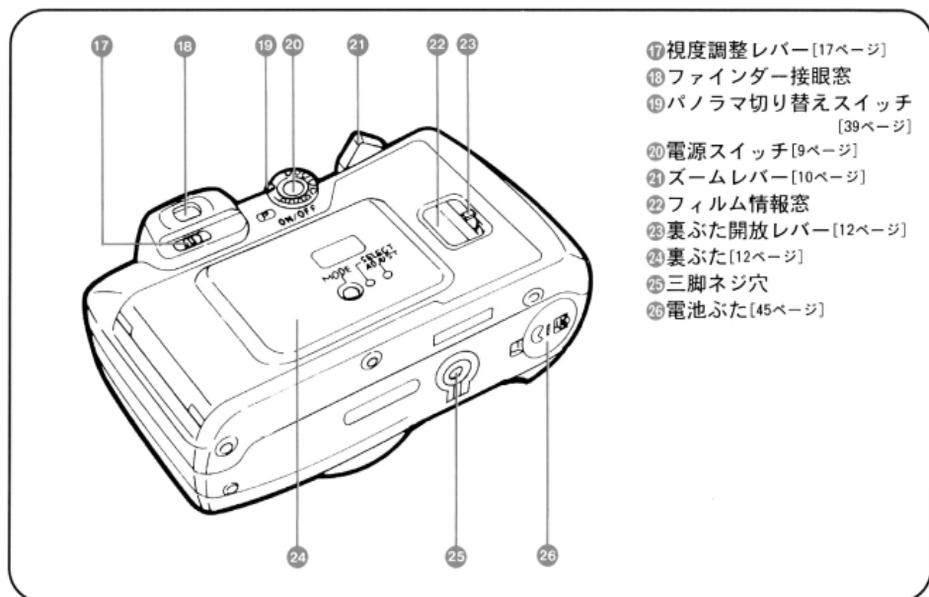
主な仕様

形式	ズームレンズ内蔵フルオート35mmレンズシャッターカメラ [デイト付き]
使用フィルム	35mmDXフィルム専用 [135バトローネ入り] ISO25~3200自動感度セット [1EVステップ] DX以外=ISO25固定
画面サイズ	24×36mm [パノラマ撮影時は13×36mm]
フィルム入れ	オートローディング、裏ぶた閉じにより1枚目まで自動巻き上げ
巻き上げ	自動巻き上げ式、1コマ撮影・連続撮影 [約1.7秒/コマ]
巻き戻し	フィルム終了時自動巻き戻し式 [巻き戻し時間: 24枚撮りフィルムで約20秒] 巻き戻し終了時自動停止、途中巻き戻し可能
撮影枚数	自動復元順算式、巻き戻しに連動 [減算]
外部表示	表示パネルにLCD液晶表示
レンズ	ペンタックス 38~120mmF4.0~8.8 電動ズームレンズ 7群9枚 画角 59°~20.5°
ピント合わせ	赤外線アクティブオートフォーカス方式、フォーカスロック付き、測距範囲=0.85m~∞ [120mm側] 0.65m~∞ [38mm側]、[最大倍率約 1/6.1×]、スーパーマクロ = 0.45m。固定 [倍率約 1/3×]、遠景撮影モード付き [ピントは無制限に固定]
ズームング	電動式
シャッター	プログラムAE電子式シャッター=約1/400~1/5秒、パルプ [1/2秒~10分]、電磁リリース式
セルフタイマー	電子式赤ランプ表示、作動時間約10秒、作動後の解除可能
ファインダー	実像式ズームファインダー、視野率83%、倍率0.47× [38mm側] 1.24× [120mm側] 視度調整付き -3~+1D [ディオプトリー]、オートフォーカスフレーム、視野枠、近距離視野補正枠 [標準撮影用]、パノラマ視野枠、スーパーマクロ視野枠、ファインダー内=緑ランプ表示 [点灯: 撮影可能、点滅: 近距離警告]、赤ランプ表示 [点灯: ストロボ発光、点滅: ストロボ充電中]、遠景ランプ表示 [点灯: 遠景撮影モード]

露出	プログラム式自動露出 [6 分割測光] 露出連動範囲 [ISO100] オート、日中シンクロ時=EV9.5~EV17 [38mm側] EV11.5 ~EV17 [120mm 側] 低速シャッター撮影時=EV6.0~17 [38mm側] EV8.0~17 [120mm 側] 逆光時自動露出補正可
多重露出	可能
露出計スイッチ	シャッターボタン
ストロボ	ズームオートストロボ内蔵 [赤目軽減機能付き]、オート=低輝度、逆光時自動発光、 ストロボON=日中シンクロ/低速シンクロ [1/5秒まで使用可能]、ストロボOFF=発光 停止、バルブシンクロ=1/2秒~10分
ストロボ撮影範囲	[ISO100 使用時] 広角 [38mm] =0.65~4.6m、望遠 [120mm] =0.85~2.6m
ストロボ充電時間	約5秒 [当社試験条件による]
リモコン	赤外線リモートコントロール、テレ端 [120mm] 中間 [65mm] ワイド端 [38mm] の ステップズーム可、作動距離=カメラ前面 5m以内 即撮影、3秒後撮影をカメラ本体に て切り替え可
リモコン電源	リチウム電池 [CR1620] 1個 [サービスセンター交換]
リモコン大きさ	
質量 [重さ]	23.5 [幅] ×68.5 [長] ×15.0 [厚] mm 15g [ホルダー付き]
電源	3Vリチウム電池 [CR123A相当品] 1本使用
撮影可能本数	24枚撮りフィルム使用時約15本 [ストロボ50%使用、当社試験条件による]
電池消耗警告	表示パネルに [] が点灯、点滅時シャッターロック
データ機構	クォーツ制御・液晶表示式デジタル時計、オートカレンダー [西暦2019年まで、閏年 は自動修正]
データ写し込み方法	フィルム背面からの写し込み
データの種類	①年・月・日 ②日・時・分 ③----- [データ写し込み無し] ④月・日・年 ⑤日・月・年
大きさ・質量 [重さ]	125 [幅] ×70.0 [高さ] × 58.0 [厚み] mm 290g [電池別]
付属品	ストラップ、ソフトケース、リモコン

53

各部の名称 (背面)



1. 修理をお急ぎの場合は、当社のサービス窓口
に直接お持ちください。郵送の場合は、カメ
ラの化粧箱などを利用して、輸送中の衝撃に
耐えるようしっかり包装し、書留小包便でお
送りください。不良見本のフィルムやプリン
ト、また故障内容の正確なメモを添付してい
ただけると原因分析に役立ちます。



2. 保証期間中〔ご購入後1年間〕は保証書〔販売
店印および購入年月日が記入されているも
の〕をご提示ください。保証書がないと保証
期間中でも修理が有料になります。なお、販
売店または当社各サービス窓口へお届けいた
だく諸費用はおお客様にご負担願います。
3. 保証期間以後の修理は原則として有料です。
運賃掛捨てについてもお客様にご負担願いま
す。
4. 本製品の補修用性能部品は、製造打ち切り後7
年間を目安に保有しております。したがって
本期間中は原則として修理をお受け致しま
す。なお、期間以後であっても修理可能の場
合もありますので当社の各サービス窓口にお
問い合わせください。
5. 海外旅行をなさる場合、各サービス窓口でお
手持ちの保証書と交換に国際保証書を発行し
ております。〔保証期間中のみ有効〕

●お問い合わせは次の各サービス窓口へ

ペンタックスフォーラム	〒163-04	東京都新宿区西新宿2丁目1番1号 新宿三井ビル (丸の内線)	☎03(3348)2941(代)
旭光学 東京サービスセンター	〒104	東京都中央区銀座西8丁目10番地 (土橋交差点交番並び)	☎03(3571)5621(代)
〃 札幌サービスセンター	〒060	札幌市中央区北10条西18丁目36番地 ペンタックス札幌ビル	☎011(812)3231(代)
〃 仙台サービスセンター	〒980	仙台市青葉区中央2丁目2番10号 仙都會館	☎022(281)5681(代)
〃 新潟サービスセンター	〒951	新潟市本町通七番町1153番地 新潟本町通ビル	☎025(224)8391(代)
〃 横浜サービスセンター	〒231	横浜市中区不老町1丁目6番9号 横浜エクセレントマビル	☎045(681)8771(代)
〃 静岡サービスセンター	〒420	静岡市伝馬町24番2号 住友建設ビル	☎054(255)6308(代)
〃 名古屋サービスセンター	〒461	名古屋市中区東1丁目19番8号	☎052(962)5331(代)
〃 金沢サービスセンター	〒920	金沢市尾張町2丁目8番23号 太陽生命ビル	☎0762(22)0501(代)
〃 大阪サービスセンター	〒542	大阪市中央区南船場1丁目17番9号	☎06(271)7996(代)
〃 広島サービスセンター	〒730	広島市中区大手町3丁目7番2号 大東火災広島ビル	☎082(248)4321(代)
〃 福岡サービスセンター	〒810	福岡市博多区中洲中島町3番8号	☎092(281)6868(代)
〃 お客様相談室	〒104	東京都中央区銀座西8丁目10番地 (土橋交差点交番並び)	☎03(3572)6479

*日曜・祝日および土曜日は原則として休みます。

ただし、年末年始を除きペンタックスフォーラムは年中無休です。

ペンタックスファミリーのご案内

ペンタックスファミリーは、ペンタックス愛用者の写真クラブで
す。年4回の会報と写真年鑑の配布、イベントへの参加や修理料
金の会員割引など様々な特典があります。

お申し込み・お問い合わせは下記ペンタックスファミリー事務局
まで。

〒100 東京都千代田区永田町1丁目11番1号
三宅坂ビル3F ☎03(3580)0336



旭光学工業株式会社
〒174 東京都板橋区前野町2丁目36番9号
ペンタックス販売株式会社
〒100 東京都千代田区永田町1丁目11番1号